

# 病害虫発生予察注意報 第3号

## 病害虫名：斑点米の原因となるカメムシ類

1 発生予想 斑点米の原因となるカメムシ類の発生が多く、斑点米が多発する恐れがある。

2 対象地域 県下全域

### 3 根拠

- (1) 6月下旬の畦畔のすくい取り（ネット20回振）調査で、斑点米の原因となるカメムシ類（以下、斑点米カメムシ類）の捕獲地点率が東信、北信で直近5年間の平均値に比べて高く、1地点あたり平均捕獲頭数が東信、中信、北信で多かった。また、中信、北信では県内における主要種であるアカヒゲホソミドリカスミカメに加えて、アカスジカスミカメの捕獲も目立った。（表1）
- (2) 7月上旬の本田のすくい取り（ネット20回振）調査では、斑点米カメムシ類の捕獲地点率が全域で平年に比べて高く、1地点あたり捕獲頭数は東信、南信、中信で平年に比べて多かった。（表2）
- (3) 県下6カ所に設置した予察灯のうち、2地点（上田市、飯田市）で、7月16日の梅雨明け以降、アカヒゲホソミドリカスミカメの誘殺頭数が平年に比べて多かった。（図1）
- (4) 7月29日気象庁発表の向こう1か月予報では、平年と同様に晴れの日が多く、気温は平年に比べて高いと予想されており、斑点米カメムシ類の活動が活発になることが推測される。

### 4 防除対策と留意点について

- (1) 畦畔及び周辺の雑草は、斑点米カメムシ類の発生源となるため除草を徹底する。ただし、出穂前後に畦畔の草刈りを行うと、畦畔雑草に生息する斑点米カメムシ類を水田内に追い込む恐れがあるので、出穂2週間前までに行う。また、登熟期間中（特に乳熟～糊熟期）も同様であり、出来るだけ控えた方がよい。実施する場合には薬剤防除の直前に行う。
- (2) 斑点米カメムシ類は、水田畦畔の雑草管理状況や周辺環境条件等など地域によって発生量が異なる。水田内でのすくい取り調査などにより発生量や発生種の把握に努め、薬剤選択や追加防除の要否判断の参考とする。
- (3) 斑点米カメムシ類は、主に出穂以降に水田内に侵入するため、一般に出穂の早い品種（早生種及び酒米等）で発生が多く、被害を受けやすくなる。
- (4) 防除薬剤は、「令和3年長野県農作物病害虫・雑草防除基準」に基づき選定する。また、散布に際しては、農薬使用基準を遵守し、周辺への飛散防止に努める。特に、養蜂が行われている地域で殺虫剤を散布する場合には、養蜂業者への情報提供を行うとともに、「令和3年長野県農作物病害虫・雑草防除基準」の特別指導事項等に基づきミツバチへの危被害防止対策に努める。
- (5) 薬剤散布に際しては、水稻の生育状況を確認し適期防除に努める。本田防除で粉剤や乳剤を使用する場合は、出穂10日後に実施し、発生が多い地域では、さらに7～10日後（出穂17～20日後）に追加防除を実施する。粒剤を使用する場合には、出穂期に防除を実施するが、アカヒメヘリカメムシ、クモヘリカメムシ等の中～大型種には効果が劣るので発生種を確認のうえ使用する。

表1 斑点米カメムシ類の畦畔すくい取り（ネット20回振）による捕獲状況（6月下旬）

調査地点数	捕獲地点率(%)		1地点当り捕獲頭数				斑点米カメムシ類の捕獲頭数(捕獲割合(%))							
	本年	H28~R2年平均	本年			H28~R2年平均	計	アカヒゲ	ホソミ	アカスジ	カストゲ	シラホシ	ホリハリカメ	アカヒメ
			平均	最多	最少			ドリカスミカメ	ミカメ	カメムシ	ムシ	カメムシ		
東信	15	60.0	46.7	3.2	22	0	1.5	32	25	0	7	0	0	
南信	18	55.6	64.0	2.6	18	0	5.3	46	34	2	1	8	1	
中信	20	57.1	75.6	10.8	76	0	8.7	226	159	66	0	0	1	
北信	17	70.6	52.9	5.7	33	0	4.3	97	70	21	5	1	0	
県全体	70	60.6	53.5	5.9			5.7	401(100%)	288(72%)	89(22%)	13(3%)	9(2%)	2(0.5%)	

注1) 調査方法：畦畔においてすくい取り（ネットを20回振）で捕獲された斑点米カメムシ類（成虫及び幼虫）を調査  
 注2) 捕獲地点率(%)：調査地点のうち斑点米カメムシ類が捕獲された地点の割合  
 注3) 1地点当り捕獲数：捕獲数計（成虫数+幼虫数）÷調査地点数

表2 斑点米カメムシ類の本田すくい取り（ネット20回振）による捕獲状況（7月上旬）

調査地点数	捕獲地点率(%)		1地点当り捕獲頭数				斑点米カメムシ類の捕獲頭数(捕獲割合(%))							
	本年	平年	本年			平年	計	アカヒゲ	ホソミ	アカスジ	カストゲ	シラホシ	ホリハリカメ	アカヒメ
			平均	最多	最少			ドリカスミカメ	ミカメ	カメムシ	ムシ	カメムシ		
東信	15	46.7	25.5	2.7	9	0	0.7	40	40	0	0	0	0	
南信	18	55.6	20.2	1.3	12	0	0.4	17	17	0	0	0	0	
中信	20	42.9	36.4	1.7	19	0	1.1	35	35	0	0	0	0	
北信	17	47.1	35.4	1.2	11	0	1.5	21	21	0	0	0	0	
県全体	70	47.9	29.2	1.7			0.9	113(100%)	113(100%)	0(0%)	0(0%)	0(0%)	0(0%)	

注1) 調査方法：本田においてすくい取り（ネットを20回振）で捕獲された斑点米カメムシ類（成虫及び幼虫）を調査  
 注2) 捕獲地点率(%)：調査地点のうち斑点米カメムシ類が捕獲された地点の割合  
 注3) 1地点当り捕獲数：捕獲数計（成虫数+幼虫数）÷調査地点数  
 注4) 平年：平成23年～令和2年の平均値。

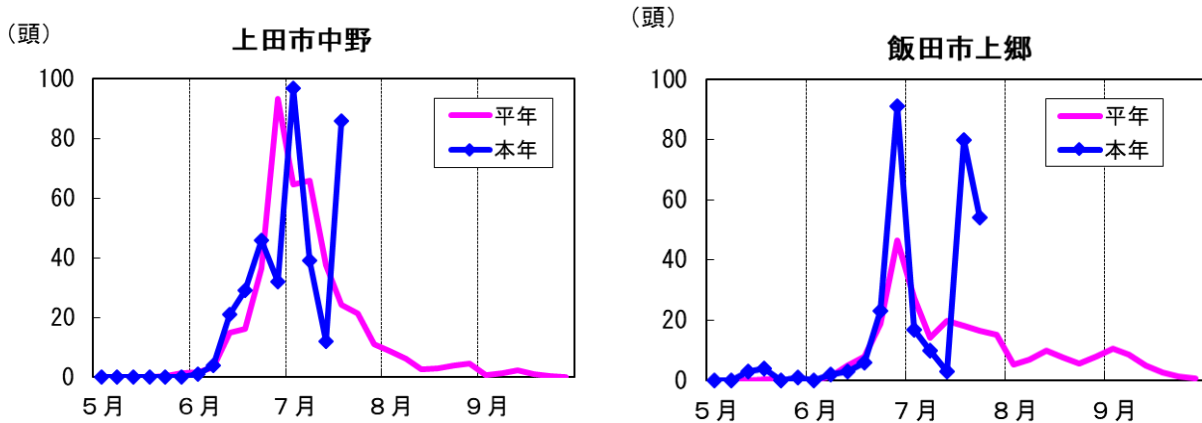


図1 予察灯によるアカヒゲホソミドリカスミカメの誘殺消長

注1) 平年は平成23～令和2年の平均値。



図2 アカヒゲホソミドリカスミカメの成虫

長野県病害虫防除所  
 鈴木正幸（所長） 若林秀忠（担当）  
 TEL：026-248-6471（直通）  
 FAX：026-248-6473  
 E-mail bojo@pref.nagano.lg.jp